

事例：思い出多いこの家で暮らし続けたい

神谷花子さん（77歳）は、夫と二人暮らし。

20歳から保育士としてA市の保育園に勤め（25歳から35歳は子育てで離職していたが、その後復職）、60歳で退職。その後はパート勤務で保育士を続けていたが、脊柱管狭窄症、変形性膝関節症による坐骨神経痛や腰痛が出現しはじめ、症状の悪化とともに立ち仕事がつらくなり、65歳のときに辞めている。

共働きの長女（新橋早紀さん）の家族を助けるため手伝いにも出かけていたが、それも最近はつらくなっている。特に痛みの強いときには、立ち上がることも歩くこともできない。1日何もせず、布団の上で座って過ごすことが多くなったという。

趣味は、友人との散歩（「ハイキング」と呼んでいる）だったが、最近では家に閉じこもりがちで、友人との交流が途絶えている。

手にしびれがあるようだと感じ出したことから、長女にも勧められ、介護保険の利用を考えた。要介護認定を申請し、結果は要介護2。主治医意見書は、かかりつけ医である長谷川内科クリニックで作成してもらった。

夫は、今も不定期だが大工の仕事をしている。長男夫婦、長女夫婦との関係はよいが、両者とも仕事が忙しいため、介助に来ることは難しく、介護保険サービスの利用を考えている。神谷さん自身は、自宅で夫との暮らしを続けたいと希望しており、趣味の菓子づくりや散歩に出かけたいという意欲もある。

・主な登場人物

○神谷花子さん 77歳

A市の保育園を60歳で退職後も、パート勤務で保育士の仕事を続けていたが、脊柱管狭窄症、変形性膝関節症からくる坐骨神経痛や腰痛のため、立ち仕事がつらくなり65歳のときに辞めている。62歳で高血圧症、76歳で糖尿病、神経障害の診断を受けている。最近では家に閉じこもりがちで、痛みがあり歩行も不安定なため、大好きだった散歩にも行くことができなくなっている。また、最近は料理の味つけに自信をなくして、調理を行っていない。同じ内容の話を繰り返すといったこともある。

○神谷良夫さん（夫）77歳

隣町で工務店を経営している長男のところで、不定期だが大工の仕事をしている。職人気質で、仕事をすることが生きがい。楽しみは仕事の後のテレビでの野球観戦。妻の様子を気にしながらも、もっぱら長女に任せていた。家事は全くしたことがなかったが、最近は惣菜を買って帰ったり、ご飯を炊いたりなど協力する気持ちはある。

○長谷川博さん（長谷川内科クリニック院長 主治医）58歳

神谷家のかかりつけとなっている内科医。先代の院長のときから付き合いがあり、息子である現院長とも懇意である。

○町田和子さん（友人）77歳

短大からの友人であり、神谷花子さんのハイキング仲間、お茶飲み友達でもある。最近、神谷さんの腰や膝の痛みが悪化し、出歩かなくなったことをとても気にしている。近所に住んでいて、自分が手

助けできることがあれば協力したいと考えている。

○新橋早紀さん（長女）50歳

夫（49）と子ども2人（15歳の息子、14歳の娘）の4人で暮らす。夫は公務員で、本人は会社員。母親の料理の味つけや家に閉じこもりがちになっていることを心配し、介護保険の申請を勧めた。親子の関係は良好。

○智子さん（教え子）40歳

保育園の教え子。自分の子どもたちを連れて、菓子づくりを習いに来るなどの交流があるが、2月頃から訪ねてきていない。

○神谷光司さん（長男）52歳

隣町で妻（46）と子ども2人（20歳の息子、17歳の娘）、伯母（74）と暮らしている。工務店を経営していた伯父（10年前に死亡）の跡を継ぎ、夫婦で切り盛りしている。親子関係は良好だが、工務店の仕事が忙しく、休みがない毎日を送っている。

○上野祥子（居宅介護支援事業所C・介護支援専門員）45歳

①神谷花子さんの長女（新橋早紀さん）からの電話

居宅介護支援事業 C の介護支援専門員上野さんのところに、神谷花子さんの長女である新橋早紀さんが、介護保険について知りたいという電話をかけてきたところからはじめます。電話でのインテークを学ぶため、会話の内容をみてみましょう。

上野：はい、居宅介護支援事業所 C の上野でございます。

新橋：もしもし、私、新橋と申します。私の母のことなのですが。介護保険のことどうかがいたいことがあります。

上野：はい、介護保険に関するこですね。私は介護支援専門員の上野と申します。お電話でお話し いただく内容につきましては、個人情報として厳重に管理させていただきます。どのようなことでしょうか。

新橋：ありがとうございます。ええと、母は、本町の 3 丁目に、父と 2 人で暮らしているのですが、介護保険の認定通知というものが届きました。同じ封筒に入っていたそちらの事業所名が載った一覧表を見て、そちらは本町の 3 丁目ですよね、近くでいいかなと思いました。

上野：お母様が介護保険をご利用になりたいと考えていらっしゃるんですね。

新橋：ええ、そうなんです。母は、我慢強い性格なので、痛いとかつらいということを言わない人で。

上野：どういうご病気をおもちなのでしょうか。

新橋：脊柱管狭窄症と坐骨神経痛です。あと、高血圧症と糖尿病。家の中ではつまり歩きしていましたが、段差が多くて。なんだか、左側の手に蟻が這っているようだと言っていたんですが、伝い歩きするのも怖いって言って。

上野：それで介護保険を申請されたんですね。お母様の要介護度をご存知ですか。

新橋：要介護 2 です。

上野：お母様のご希望は何かございますか。

新橋：ずっとこの町で暮らしてきたので、住み慣れた家で暮らし続けたいと言っています。私は新町なので車で 10 分くらいなんんですけど、共働きなので、土日しか様子をみにいけないです。長女なので何とかしないといけないんですけど。

上野：お父様と二人暮らしなんですね。

新橋：はい。父は隣町で工務店をしている兄のところで、ときどき仕事をしていますが、介護が必要っていうほどじゃないんですけど、父は 77 歳で、歳相応にからだも弱っていて。仕事といっても現場で若い人にアドバイスしているくらいで。ずっと大工をしていましたから。

上野：お父様は家事をお手伝いすることはありますか。

新橋：家事なんかやったことないです。頑固者だし。毎日をいただいたときは、切ったりしますけど。ああ、余計なことばかり言っちゃって。一度、母と一緒にお話を聞きに行きたいんですけど、予約みたいなことが必要ですか。

上野：明日は土曜日ですが、新橋様のご都合はいかがですか。

新橋：午後ならいつでも大丈夫です。

上野：私がお母様のお宅にうかがって、一緒にお話を聞かせていただくことはできますか。

新橋：わざわざ来ていただけるの。

上野：はい、お母様から直接お話をうかがいたいと思います。ご自宅の様子も拝見させていただけると、こちらからご提案できることもありますし。

新橋：あの家で住み続けたいと言っているのだから、どんな家で暮らしているのかを見てもらえるのは助かります。では、何時くらいがいいですか。

上野：午後 2 時ではいかがですか。

新橋：ありがとうございます。

上野：では、お母様のお名前、生年月日、ご連絡先を教えていただけますか。

新橋：母の名前は神谷花子です。神社の神、山谷の谷、普通の花に子どもです。昭和 23 年 2 月 20 日生まれ、住所は、本町 3-2-1 電話は (123) 4567 です。郵便局の脇の道に入った突き当りの家です。

上野：新橋様のお名前と連絡先を教えていただけますか。

新橋：ああ、私の携帯は、090 (0000) 0123。結婚して新橋ですが、新橋は、新しいに、渡る橋、実家では「早紀」って呼ばれています。早紀は、早いに紀元前の紀です。

上野：新橋早紀様ですね。改めて、私は居宅介護支援事業所 C の介護支援専門員の上野と申します。明日は、一度、お電話を差し上げてからうかがいましょうか。

新橋：大丈夫です、直接来ていただいて。明日は早紀って呼んでいただいて結構ですから。

上野：ありがとうございます。明日は、車でおうかがいしてもよろしいでしょうか。

新橋：軽であれば、停められますよ。何か、用意するものはありますか。

上野：はい、お母様に届いている認定通知書、介護保険の被保険者証、印鑑をご用意いただけますでしょうか。

新橋：通知は日曜日に行ったときにみました。あります。

上野：ありがとうございます。では、明日 2 時におうかがいします。

新橋：ありがとうございます、お待ちしています。

「電話受けつけ後、上野ケアマネが考えたこと、行ったこと」

上野：まずは、今の電話で聴きとった内容を整理しましょう。

(本人について)

- ・名前は神谷花子さん。昭和 23 年 2 月 20 日生まれ
- ・本町 3 丁目に、夫と二人で暮らしている
- ・我慢強い性格で、痛いとかつらいということを言わない人
- ・ずっとこの町で暮らしてきたので、住み慣れた家で暮らし続けたい

(日常生活上の支障、困りごと)

- ・脊柱管狭窄症と坐骨神経痛
- ・高血圧と糖尿病
- ・家の中はつかまり歩きしている
- ・家の中は段差が多い
- ・左手に蟻が這っているようだと言っていた
- ・伝い歩きするのも怖いと言っている

(家族について)

- ・夫は 77 歳で大工。時々仕事をしているが、年相応にからだが弱っている
- ・長女は車で 10 分くらいのところに住んでいる。共働きなので土日しか様子を見に行かれないが、何とかしなければいけないと思っている
- ・長男は隣町で工務店を営んでいる

上野：次に、これらの情報から、訪問時にお聞きすることをまとめていきましょう。

<基本的な情報・本人らしさ・>

お年は昭和23年2月20日生まれの77歳。ご主人と同じ年ね。

「ずっとこの家で暮らしたい」と言われているけれど、きっと大切なお家なんでしょうね。

これまでどんな生活をされてきているのか聞かせていただく必要があるわね。

<問題の本質がどこにあるのか。神谷花子さんに起きていること>

現在の生活に起きていること、ご病気がどのようなものか、まず全体をつかみたいわね。

「適切なケアマネジメント手法」基本方針で項目を確認し、アセスメントの際に必要な視点を確認しましょう。(仮説を立てる)

神谷さんは我慢強くて痛いと言わないけれど家の伝い歩きも怖いとおっしゃっていた。

お家も段差が多いと言われていたから、そこも含めてトイレやお風呂がどうなっているのかお家の様子も見てくる必要があるわね。それから、家の周りは車が多いのかしら。神谷さんは歩くのが不安定だとと言われていたから、外出はしていらっしゃるのかな。

<介護保険利用の理解・動機>

今回、どのような経緯で介護申請したのか、伺う必要があるわね。

要介護2が出ているなら、介護保険証で確認と、負担割合証の確認もしましょう。

<疾患への理解や受け止め・疾患からくるリスク>

ご病気は脊柱管狭窄症、坐骨神経痛、高血圧、糖尿病ね。

ご病気についてどのように理解されていて、治療について考えていることを聞かせていただくこと。

お薬は何か、お薬の数が合っているかを確認しましょう。

痛み止めや血圧の薬、糖尿病の薬もあるかもしれないわね

水分やお薬はきちんと飲めているのかしら。痛みなどがあっても我慢されていること、左手に蟻が這っているようだということは、しびれなどがあるのかしら。それも含めて今後注意しないといけない事や転倒などの予防についても主治医の先生にお話を伺う必要があるわね。

主治医の先生との関係はどうなのかしら。

<家族の状況や家族支援の視点>

あとはご主人の体調や、ご主人の意向もお伺いしましょう。

長女さんは毎週土日に来ていただけているけれど、長男さんはどうなのかしら、忙しいのかな。

神谷さんは家の伝い歩きも怖いとおっしゃっていたようだけど、お家も段差が多いとおっしゃっていたから、そこも含めてトイレやお風呂がどうなっているのかお家の様子も、見てくる必要があるわね。それから、家の周りは、車が多いのかしら。花子さんは歩くのが不安定だと言われていたから、外出はしていらっしゃるのかな。

あとは、介護保険の説明パンフレット、契約書、重要事項説明書、居宅サービス計画作成依頼届出書、認定情報提供申請書を準備して。ほかに福祉用具などのパンフレットもお持ちしてみよう。

② 訪問（1回目）

土曜日の午後1時40分、神谷さん宅着。少し時間があるので、家の周りを歩いてみる。一周してきたところに長女の早紀さんが現れる。

【重要事項説明等まで】

早紀：こんにちは、上野さん？

上野：はい、上野です。こんにちは。

早紀：ありがとうございます。母と、それに父にも、今日はいなさいよってつかまえておいたので、3人でお話をうかがわせてくださいね。

上野：はい。皆さんのご希望をうかがえたほうが、こちらとしてもありがとうございます。

早紀：さあ、どうぞ。

上野：はい、おじゃまいたします（あいさつをし、靴をそろえて神谷さん宅に。上り框が40cm、廊下から居室に10cmの段差があった。玄関横の部屋にいる、神谷花子さん、夫の神谷良夫さんにあいさつをして腰かける。畳、座卓を囲んで座る）。

神谷：今日はわざわざありがとうございます。

良夫：どうも、よろしく。

上野：ご連絡をいただきましてありがとうございます。（介護支援専門員証をテーブルの上において）

私は居宅介護支援事業所Cで介護支援専門員をしている上野と申します。

（いきなり本題に入るのではなく、その場の雰囲気を和らげるため世間話などをする）。

お庭にあるのはハナミズキの樹ですよね。これからきれいな花が咲きますね。

神谷：毎年、きれいに咲きますよ。隣の家からのほうがよく見えるんじゃないかな。

上野：昨日、お電話で、こちらの家でずっと住んでいらしたいというお話をうかがって参りましたが、とてもいいお住まいですね。

神谷：そうなの。小さいけど大好きな家よ。

上野：大切にされてきたんですね。お話をうかがわせていただく前に、介護保険制度に関する簡単なご説明と、私がしています介護支援専門員の業務内容をご説明いたします。

内容を確認していただいたうえで、同意していただけましたら契約をお願いいたします。

I. 介護保険制度の行政パンフレット 2. 重要事項説明書 3. 契約書 4. その他の資料

契約を行い、それぞれが契約書を保管することを確認する。

【会話の導入】

上野：今、ご説明しましたように、神谷さんがこの家で暮らしていくために必要なさまざまな支援内容を計画書にしたものを「居宅サービス計画」といいますが、神谷さんの生活を再構築するためのお手伝いをさせていただくことになります。

神谷：はい、よろしくお願ひします。

上野：お話の内容を記録させていただきます。間違いないようにさせていただくためです。

神谷：はい、どうぞ。

上野：これからお聞かせいただくお話の内容は、私だけが考えるのではなく、神谷さんの意向をもとに、それぞれの専門職からの意見もまとめて、居宅サービス計画の原案をつくります。さらに、サービス担当者会議といいますが専門職だけでなく皆さんにも中心となって参加していただき、私たちからの提案にご納得をしていただいたうえで、居宅サービス計画に署名していただくことになります。つまり、神谷さんに選んでいただくことになります。ですから、神谷さんがどういう生活をしてきたのか、これから、どういう生活をしていきたいのかということをお聞きすることになります。

一同：なるほど。

上野：どんなことが好きなのか、何をしたいのかは、お一人おひとり違いますから、総合的にお話をうかがわせていただくことになります。

神谷：ええ、何でも聞いてください（書類を手提げ袋にしまう）。

【生活歴・職歴】

上野：お生まれは。

神谷：1948年（昭和23）年の2月20日です。ほら、消防署のところ、火の見やぐらがあるでしょ、あそこの近くで生まれました。

上野：ずっとこの町で暮らしていらっしゃるんですね。何かお仕事はなさっていましたか。

神谷：短大で保育士の資格を取って5年間、A市の保育園で働いていました。24歳のときに夫と結婚しました。同級生だったんですよ。小学校のときの。25歳の2月に長男が生まれ、次の年の4月に長女が生まれました。学年は2つ違いますが、ほとんど年子みたいなものです。

上野：ご主人は、今もお仕事をなさっているんですよね。

神谷：夫は腕のいい大工で、今でも長男のところで時々、仕事をしています。棟梁みたいなことですかね。

良夫：みたいって。

神谷：ふふ。1歳と0歳の子どもがいて、お父さんは毎日現場に出かけていましたから、子育てがすむまで、専業主婦をしていました。

上野：それからずっと専業主婦だったのでしょうか。

神谷：いえ、子どもに手がかからなくなつたので、35歳のときに、また、保育園で働くことになったんです。このあたりは、子どもが多かったんですよ。保育園の園長先生から誘われてね。定年まで、25年勤めて、退職後もパートとして5年かな、働きました。

（書類を手提げ袋から出そうとする。座卓の上にはのせない）。

上野：何か大切なものが入っているのですか？

神谷：無くていいと思うものをまとめています。年金手帳とか保険証とか通帳とかハンコとか…。それと思い出の写真なんか…。

上野：そうですか、見せていただけますか？楽しい思い出がたくさんあるのですね。

上野：じゃあ、ご近所にも卒園生の方がいっぱいいらっしゃいますね。

神谷：そうね。智子さんや美穂さんは、自分の子どもを連れてくるわね。お菓子のつくり方を教えてなんて、優しい子たちだからね。

早紀：智子さんと美穂さんね。保育園中をバッタだらけにした。お転婆さんだったけどお母さんのことはすごく慕ってくれていたよね。以前はよくいらしてくれたみたいだけど最近は、そんなにいらっしゃらないわよね。年に1、2回？

神谷：そうね。みんな忙しくなってなかなか時間が作れないみたい。

上野：では、保育園は、65歳まで働いたということですね。

神谷：ええ。でも、脊柱管狭窄症が持病でね、ずっと痛かったんだけど、65歳の頃に膝の関節も悪くなっちゃって、立っているのもつらいし、子どもを抱き上げるのもね。それで私も卒園しました。

上野：ほかにおからだのことでは何か。

早紀：母は、お菓子が好きなので、自分でもつくっていて。そういうこともあって糖尿病で高血圧なんです。15年くらい薬を飲んでいて。それに、先月、介護保険の申請に必要な書類を書いていたくときに、「手に蟻がいると言っている」って先生に言ったら、CTっていうんですか、頭のレン

トゲンを撮ってくれました。先生がおっしゃるには、自然に治っているようですが、脳梗塞を起こしたことがあるようだと。だから、左手がしびれた感じになっているのではないかって。

上野：手のしびれは、かなり強く感じていますか。

神谷：強いわけじゃないんですけど、なんかね。歩くときに、気になっちゃって。ふらついても、さっと手を出せないんじゃないかなって。つかんだりできないってわけじゃないんですけど。転んだり、骨折したりしやすいしょ、私、膝も痛いし、介護保険を使おうって思ったのも、そういうこともあってね。

上野：左手で握手してみてもいいですか。

神谷：はい（ずっと手を差し出す）。

上野：（握手をしてみる。力加減を確かめる）

早紀：長女なので、できるだけのことはと思っているんですけど。共働きで、私が住んでいるのは新町なので、車で10分くらいなんんですけど、職場までは1時間くらいかかるから、土日しか顔を出せないんですよ。

【家族構成】

上野：家族構成をお聞かせください。

早紀：じゃあ私が。父は良夫、77歳、母と二人暮らしです。父にはお兄さんがいましたが、10年前に亡くなっています。伯母は74歳で元気です。母の両親は、ずいぶん前に亡くなっています。

神谷：ええ。

早紀：両親の子どもは、兄と私の2人。兄の光司が52歳、奥さんの光子が46歳、20歳の息子、17歳の娘がいます。兄夫婦は、父のお兄さんがやっていた工務店を継いで、隣町で暮らしています。

私は51歳で、夫は49歳、15歳の息子、14歳の娘がいます。私は会計事務所で働いていて、夫は公務員です。

神谷：戦後の混乱期ですね、私には2歳上の兄と一つ下の妹がいたんですよ。栄養失調で二人とも亡くなってしまって、両親も私が高校を卒業する頃に亡くなっています。

上野：では、お一人で頑張っていらっしゃったんですね。

神谷：大変だったけど、兄や妹のことを思うと幼い子供の力になりたくて保母さんを目指しました。今は保育士さんね。働きながら奨学金と合わせて自分で費用を出して夜間の短大を出了したね。両親の家は、今はもうありませんけど、ほら、消防署の先の空き地のところ。同じ町内にあったの。

上野：はい（先ほども出た話だが、話を聞く）。

神谷：子供たちは、夫の母親にかわいがってもらって。何かあると、必ず来てくれましたから。覚えてい る？

早紀：うーん。あんまり。でも計算を褒められたことは覚えているわ。

神谷：おこづかいの計算速かったものね。

早紀：いいから。上野さんが困っているしょ。

【介護力】

上野：早紀様は、土日にはいらっしゃって、お兄さんたちはどうなんですか。

神谷：息子のお嫁さんもいい人で、早紀とも仲がいいんですけど、仕事が忙しいんですよ。夫にも来て

もらいたいっていうくらいですもの。仕事が忙しいのはいいことですから。

上野：ご主人は、家事のお手伝いをなさるんですか。

良夫：ご飯くらいは炊くことはあるけど、ほとんど何も。

早紀：けっこう頑固な父でも、ご飯を炊くようになりました。でも、父もちょっとからだが弱くなっているし、基本的には、おかずを買って帰ってくるくらいね。

良夫：糖尿病の食事なんかつくれねえし。

神谷：お惣菜屋さんが近くにあるから。

【健康状態・ADL・IADL】

上野：健康状態について改めてお聞かせください。いつもかかっている先生はどなたですか。

神谷：長谷川内科クリニックの若先生です。

上野：介護保険の申請に必要な書類を書いてくださったのも長谷川先生ですね。昨日早紀様からうかがったのですが…。

早紀：早紀様って、早紀さんでいいですよ。

上野：はい、では早紀さんからは、糖尿病で高血圧症、脊柱管狭窄症、坐骨神経痛ということでうかがっています。

神谷：病気はそのとおりです。長谷川先生のところには月2回受診しているんです。近いんだけどタクシーに乗って。整形外科の先生のところにも月1回通っています。整形外科の先生のところは少し遠いから、お父さんに一緒に行ってもらうんですよ。

神谷：（手提げ袋から、用紙を取り出して）これ、薬の名前が書いてあるんですけど。

上野：はい、拝見します。お薬は降圧剤と鎮痛剤の2種類ですね。

早紀：ときどき飲み忘れているみたいなので、土日に来たときに、私が確認はしてるんですけど。

上野：最近、身長と体重を測ったことがありますか。

神谷：先月、整形外科の先生のところで測ってもらったの。身長は155cm、体重は42kgだったけど、最近のはどうかな。

上野：お食事は、普通に召し上がっていらっしゃいますか。

神谷：そうね、近所のお惣菜屋さんのものは、何を食べてもおいしいのだけど、食べる量は減ってるかも。あと、甘いものを少し食べて、あんまり食べちゃいけないんですけど、楽しみなんですよ。手はね、しびれた感じはするけど、お茶碗持ったりするには関係ないから。トイレが近くなるし、水分はあまり摂らないようにしています。

上野：そうですか。身体には一定量の水分は必要ですから、その分の水分は摂られたほうがいいでしょうね（提案も盛り込みながら話す）。

早紀：一度間に合わなかったことがあるみたいで。

神谷：そんなこと言わなくとも。

早紀：ごめん。でも、ほら、そこ（廊下から居室までの段差10cm）トイレの入り口（段差5cm）のところも段差があって、ちょっと危ないんですよ。

上野：ちょっとありますね。

神谷：カラーBOXなんかを伝っていくと、ふらふらしないでいいんですけど、ほら、トイレ行くときは、左手で触っていくから、なんかね。朝と夜は、お父さんに頼んでトイレまで行ってるけど。昼間がね。

上野：お通じは。

神谷：2日に1回くらいです。

上野：それ以上なくて困ることはありませんか。

神谷：それはありません。

上野：入浴はどうなさっていますか。

神谷：お風呂場も段差があってね、1人では。顔なんかは、朝ごはんのときに台所で洗うんですけど、歯みがきも一緒に。前歯の上が4本、部分入れ歯なんだけど、それも歯ブラシで洗って。でも、お風呂はね。

早紀：父にはちょっと無理みたいなので、土曜日か日曜日に私が介助して入れています。お風呂に入るのに、高いっていうか、深いっていうか、またいで入るとき、出るときが難しいんですよ。

神谷：外出しないから、そんなに汚れないし。

早紀：でも、週に1回だから。まだ、暑くなっているからいいっていえばいいけど。

神谷：お父さんはお風呂が好きじゃないから、いつもシャワーね。仕事から帰ると。

上野：服の着替えなどはどうですか。

神谷：ゆっくりなら問題ないので、自分でしていますが、からだが痛いっていうか硬くなっているので、靴下はお父さんがチョコッと履かせてくれたり。

早紀：ふーん、そうなんだ。

良夫：届かないからな。

上野：お惣菜をご主人が買って帰っていらっしゃるということでしたが、お料理はなさっていますか。

神谷：2か月前くらいまで、料理はしていたんですけど、お父さんが、味が濃いとか薄いとか、毎回なんかいうんです。うるさいなっていうんじゃなくて、なんだか自信なくなっちゃって。最近はしていませんね。以前は子供たちの健康も考えて栄養が取れるようにって工夫もしたし、おやつも体にいいものを食べてほしくて、こだわって手づくりお菓子やお誕生日のケーキも焼いていました。食は基本だと思って作ってきたんだけど…。

上野：そうなんですね。食べることを大切にされてきたのにお辛いですね。

神谷：ええ。(沈黙)

上野：ほかに最近気になっていることはありますか？

神谷：さっきの大事な袋、どこかしら、なんて出したり入れたりしています。

上野：心配になるのですね。気になって眠れなくなることなんかありますか？

神谷：気になって確認することはあるの。でも眠れなくなるというところまではありません。

上野：今は他にどんなことをしていらっしゃいますか？

早紀：掃除とか洗濯は私が1週間分まとめて。父の作業着は、兄のところで洗ってくれるし。物干し場が2階なんですけど、階段が急で、持って上がりがないでしょ母じや。

上野：そうですね。それでは、文字が読みにくいとか、人のお話が聞こえにくいということは。

神谷：それは問題ないですね。

【1日のスケジュール】

上野：神谷さんは、毎朝、何時くらいに起きていますか。

神谷：そうですね。お父さんに仕事があるときは、6時半くらいには目を覚ましていますね。ないときでも同じくらいか。トイレについて行ってもらって、着替えている間に、お父さんがご飯よそってくれて、靴下履かせてもらって、台所で7時半くらいまでの間にご飯食べて。仕事のない日は、8時か8時半くらいにご飯を食べます。

上野：日中は何をなさっていますか。

神谷：朝使った食器を洗って、食器っていってもご飯茶碗が二つとお箸が二膳でしょ。おかげは買ってきたパックのまま食べて、捨てちゃうから。ドラマなんか観てるとお昼くらい。お昼っていっても、お腹すかないし、少しお菓子を食べて。新聞はつまらないことばかり書いてあるから、広告を眺めて、みんなごみ箱になるように折ったりして。新聞はね、料理の記事だけはよく読んでるわ。ゆっくりトイレに行って帰ってきてまた読んだりすると、何回も同じところ読んでるのかしら。終わらないのよ。あとは、タンスの中を片づけたり。お父さんが、早いときは5時くらい、遅いときでも7時くらいには帰ってくるから、ご飯食べて、薬飲んで、9時くらいは、トイレについて行ってもらつて、テレビを観ながら寝てます。10時くらいですね。夜中にトイレに起きますが、夫が起きるのと同じ調子なので、ついて行ってもらうこともあります。

【意向】

上野：神谷さんは、これからこういうふうに暮らしていきたいというご希望はありますか。

神谷：そうね。お父さんとずっとこの家で暮らしていきたいな。この家好きなのよ。私は、小さいときにきょうだいを亡くし、両親も亡くなっているでしょう。お父さんと結婚して、子どもが生まれて、家族ができて本当にうれしかった。保育園の子どもたちも、自分の家族のように思って接していましたけど。そうそう、早紀が高熱を出したときに、お父さんが病院まで駆けていって、夜中に診療所のドアを壊しちゃって、先生呼んで来てくれて。次の日に修理にうかがって謝って。頑固な人だけ、家族のことをちゃんと考えててくれていて。

早紀：長谷川クリニックの今の先生のお父さん先生ね。建物は新しくなっているけど。母の介護保険の書類を書いてくれた先生のお父さん。

上野：楽しい思いがいっぱい詰まっているんですね。

神谷：そうね。本当は、前みたいにお父さんのために栄養のあるご飯を作ったり、またお菓子を作ったりできるようになりたいな。あと、散歩ね。

上野：お散歩ですか。

神谷：ええ、お菓子とかおにぎりもって、バラのきれいな公園あるじゃない。それと、公園とは反対方向だけど、三つ並んだひょうたん池のところとかね。どの季節もいいところよ。ずっと会っていないけど、町田さんや藤沢さんとあちこちハイキングに行きたいな。私たちはハイキングって言っているの。時々、人数増えるけど。

上野：神谷さんにとって町田さんや藤沢さんはどのような存在ですか？

神谷：短大時代のお友達なの。一緒に保母さん、いえ保育士をしていたのよ。ずっと気の合うお友達。

早紀：先日、町田さんにお会いしたの。なんか体調がよくないって聞いているから、お家に行ってないけど、お母さんのご様子はって、心配してくれてたわよ。

神谷：ずっと閉じこもっていたからね。でも、今のからだじゃ無理だね。

上野：ご主人は、ご希望はありますか。

良夫：これの言うようにしてほしいと思います。私は、いろいろなことはできないけど。痛がっているのをみているのは、ちょっとつらいです。家にばかりいるのも何とかしたいんですけど。私のからだもそんなに強くなっているしね。

早紀：私たちもできるだけのことはしたいのですが、介護保険のサービスを使えると、母も父も生活しやすくなると思うんです。なんでも介護保険でって思っているわけじゃないのですが、両親の思

っているようにできればって。

上野：（介護保険について説明する） そうですね、介護保険で何でもできるということではありません。介護保険では、ご本人やご家族の希望を踏まえつつ、自立した生活に向けて専門職の意見も取り入れて、自立に向けた手段としてサービスを利用していくことになります。

神谷：まずサービスを選ぶわけではないんですね。

上野：はい。先ほど本当はまたご飯を作ったり、お菓子を作りたいと神谷さんがおっしゃいましたが、それができるようになるために何を解決したらいいのか、生活全般にわたって解決すべき課題を明らかにしたり、神谷さんができることなども一緒に探しながら、そのうえで、その解決に役立ちそうなサービスを選んでいきます。どういう暮らしをなさりたいのかということを、神谷さんもご主人も早紀さんも一緒に考えて、納得したうえで使いはじめることがあります。

神谷：私にできることですか？何があるかしら。

上野：神谷さんのこれまでの生活や生き方を教えていただきながら、神谷さん自身が気が付いていない「していること」「できること」など「いいとこ探し」をして一緒に見つけていきましょう。

私は、たくさん神谷さんの「できること」があるように思います。

神谷：そうですか。「いいとこ探し」嬉しいです。

【利用者負担・経済】

神谷：それでもサービスを利用するには毎月の保険料のほかにも、お金がかかるんでしょ。

上野：介護保険を利用するには、自己負担というものがあります。一般的には、利用したサービスの費用の 1 割を負担するしくみです。所得によっては、2 割または 3 割の負担となる方もいらっしゃいます。後ほど、「介護保険利用負担割合証」を拝見させていただけますか。

神谷：（手提げ袋の中から介護保険被保険者証と介保険利用負担割合証を取り出そうとする）

早紀：上野さんに相談するにも費用が必要なんですね。

上野：いいえ、私がお話をうかがったり、居宅サービス計画をつくったりすることに関しての皆さんの負担分はないんですよ。

神谷：そうなんですか。

上野：月々のサービス利用に係るお金は、どのくらいまでとお考えですか。

神谷：そうね、2 万円くらいかしら。保育園で働いていたので、厚生年金なんですが、月に 15 万円くらいで、少しだすけど貯金もありますから。

早紀：私も兄も、できるだけのことはしようと思っていますから。

上野：医療保険は、77 歳ですから後期高齢者医療保険ですね。

ここまで、長い時間お話を聞かせていただきありがとうございました。

今日伺ったことを一度持ち帰り、神谷さんの支援計画を作るために、生活全般の課題などを整理させていただいたうえで、再度訪問させていただき、色々提案もさせていただきながら、神谷さん、ご家族と相談させていただきます。

（次回の訪問日について打ち合わせて帰宅する。）

「上野さんが事務所に戻って考えたこと、行ったこと」

<見立て>(アセスメントをもとに課題の分析と統合を行う)

① 神谷さんという方について～らしさ～

兄や妹さんを小さいころに亡くし、ご両親とも早くにお別れして、一人で働きながら勉強を続けてこられた意志の強い方、生きる力のある方

保育士として長年たくさんの子供たちや保護者にも愛されてきたこと

やさしいご主人のために料理を頑張ったり、大切な家族との時間も大事にされてきた。

今は年齢とともに体や認知機能の低下も出てきている。

そして「できなくなった」と自信を失っている様子

やり方を変えていく時期」と本人の気持ちを転換して

行くことが必要ではないか

② 神谷さんの望む暮らし

「夫と二人で大好きな家に住み続けたい。夫のために料理を作ったり、お菓子を作ったり
友人とハイキングに出かけたりすることを楽しみたい」(あるべき姿)

③ 神谷さんに起きていること(問題は何か)(ICFで整理してみる)(別紙)

心身機能:疾患によりしびれや痛みが原因で長く立っていられない、認知機能低下、疾患リスク

活動:基本動作はおおむね自立しているが、外出せず、家事をしなくなった

参加:家族と交流はあるが、友人や教え子との交流が無くなっている

環境因子:段差の多い家、自分で動きにくい

個人因子:努力家・自立心は強い、その分できない自分に落ち込み気力低下

④ 「適切なケアマネジメント手法」で項目を確認。

基本ケアの基本方針、大項目、中項目、

疾患別ケア:リスク;糖尿病の悪化、脳血管疾患の再発、転倒

⑤ 優先順位

1、自立生活の継続 2、健康維持と予防的対応 3、社会参加や役割作り 4、環境として家族への支援

⑥ そのために想定される支援として

1、自信回復と認知機能低下予防サポート 2、身体機能の維持改善 3、食生活と料理作りサポート 4、家族や地域とのつながり

<手立て>(想定される具体的な支援と支援者)

① 自信回復と認知機能低下予防サポート。

ちょっとした料理を夫に「おいしい」と言ってもらうような、認められる体験 (夫の協力)

お菓子作りを楽しむ。(娘や孫の協力)

認知機能については専門医を受診する。(家族の協力)

短大時代、保育士時代の話を写真など見ながらおしゃべりする。(友人の協力)

② 身体機能の維持改善

移動時等の見守り (夫、家族の協力) (訪問介護?)

リハビリテーションの導入、運動する機会を作る、入浴サポート。(通所リハビリ?)

家の中の動きを評価・改善、家でできる軽い運動の提案。(訪問リハビリ? 通所リハビリ?)

跨げない浴槽の手すり設置、シャワーチェア設置。(住宅改修? 福祉用具貸与?)

栄養評価と口腔ケアの確認。（通所リハビリ？）

③ 食生活の改善や料理作りへのサポート

椅子などを設置する。調味料や器具をわかりやすく配置する。（家族の協力）（訪問介護？）

調理の手順を確認してもらうような見守り、声かけ。（訪問介護？）

神谷さんのやり方に沿って、一緒に調理をサポートする。（訪問介護？）

夫に味見係でいてもらい、一緒に共同作業をする。（夫、家族の協力）

食事を一緒に食べる。（夫、家族の協力）

④ 家族や地域のつながり

娘さんと一緒に入浴して、そのあとお茶するといった楽しい流れをつくる。（長女の協力）

かつての教え子や友人たちとのお茶会、お菓子教室を開催する。（教え子、友人の協力）

上野：こんな風に整理してみたけど、神谷さんは何て言われるかしら。ご家族にも確認しみなくては。

【家屋状況】



【神谷花子さんの住む地域の状況】

神谷花子さんの住む○市の介護事業所・施設の状況

○市 人口30,000人 高齢者人口7,800人 (高齢化率26.0 %)

包	地域包括支援センター	1 か所	居	居宅介護支援事業所	9 か所
訪	訪問介護事業所	8 か所	看	訪問看護事業所	2 か所
通	通所介護事業所	10 か所	リ	通所リハビリテーション事業所	2 か所
短	短期入所生活介護	2 か所	短	短期入所療養介護	1 か所
貸	福祉用具貸与事業所	2 か所	多	小規模多機能型居宅介護事業所	1 か所
G	認知症対応型共同生活介護	3 か所	有	特定施設入居者生活介護	1 か所
特	介護老人福祉施設	2 か所	健	介護老人保健施設	1 か所

介護事業所等マップ

